日刊 動労千葉
80.10.25
No. 566
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二三五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

11・1乗務員運用合理化阻止へ 各支部続々と決起！

動労千葉は、秋季反戦＝三里塚総決起闘争を、八一年三月ジェット決戦勝利へむけた突破口として位置づけ、十・一〇（一〇五名）→十・一九（二〇七名）→十・二一（三七四名）の連続闘争を、全組合員の総決起をもってかちとり勝利への一大橋頭堡を築いた。　この秋季反戦闘争の高揚をひきつぎ、十一・一乗務員運用合理化阻止へむけて、各支部は対話オルグ、職場集会を開催し次々と闘争体制を確立している。

全組合員のみなさん、動労東京の「九月裏切り妥結」を徹底弾劾し、十・二七局前集会に総結集しよう。

動労東京「九月裏切り妥結」に怒りが集中

十一・一乗務員運用合理化阻止・全支部総決起の先陣をきって、館山支部は十月十九日～二十一日までの三日間、全組合員を対象にした個別対話オルグを展開した。

新小岩支部も十月二十日、山口、関本部執行委員が出席し昼休み職場集会、その後乗務員分科例会を開催し、電車職場ともに闘うことを確認した。

同じく二十日、千葉運転区支部も十二時から中野本部書記長が出席して職場集会が開催された。

さらに二十二日～二十三日両日、津田沼支部も職場集会を開催し、闘争体制を確立した。

とりわけ、この乗務員運用合理化で二十一名の要員削減を提案されている津田沼支部の職場集会では、

㊀ 今回の「千葉局の十一月一日実施」攻撃は、動労東京革マル分子によるる九月裏切り妥結をテコとして行われたものでありゆるせない。

㊁ 動労中野の乗務員の話によると合理化に協力する代償として、若干の旅費のアップと東京三局の予科生の拡大、東北新幹線の東京の担当線区の拡大をしたというが、これは、僅かな金とセクト的利益（動労東京＝革マルの勢力拡大）とひきかえに乗務員の労働条件を当局に売り渡すという大裏切りではないか

㊂ 「本部」革マル反動分子は貨物合理化に対して「貨物安定宣言」をもって率先協力し、いままた「協定以外の要員はき出し」論をもって乗務員運用合理化の先兵と化している。「本部」革マル反動分子は国鉄労働者の敵だ。

㊃ 権力・当局・「本部」革マル反動分子が一体となってかけてきた今回の攻撃は、八一年三月ジェット決戦に対する組織破壊、闘争圧殺策動であることをみすえ、執行部、組合員が一体となって全力をあげて闘おう。

等々と多くの意見と闘う決意が出された。

こうして津田沼支部を先頭に職場での徹底した大衆討議をへて、十一・一乗務員運用合理化阻止の意志統一がかちとられている。

（裏へ）

81.3決戦への決意をのべる関川委員長　10.21日比谷

10/27 11月1日乗務員運用合理化強行実施 粉砕総決起集会

十七時三十分 千葉局前